



2007.10

No. 165

毎月5日発行 定価1部10円(組合員の購読料は組合費を含む)
1996年3月8日第三種郵便物許可

MONTHLY

れんごう

北海道

<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者 佐藤 富夫

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろビル6F TEL (011) 210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

渡島地協で組織拡大

森の里病院労働組合結成！連合加盟を決定！

8月31日(金) 森町・勤労者会館において「森の里病院労働組合」結成大会が開催された。「森の里病院」は、森町にある民間病院で、隣接をするグループホームも含めると従業員約75名の施設。

労働組合発足のきっかけは、経営悪化を理由とした賃金・賞与に対する不満と、見えない経営戦略、ものも言えない職場環境等々であり、以前から不満を持って辞めて行く仲間がいたことから我慢も限界に達し、組合結成に動きだした。7月末に、道南医療会議を通じて連合渡島地域協議会に持ち込まれ、森地区連合をも巻き込んだ結成準備会を立ち上げ、慎重に作業を進めてきた。



結成準備会は、「労働組合結成」の動きが表面化すれば、当然「つぶされる」恐れがあることから、秘密裏に事を進め、働くも

の一人ひとりに結成の趣旨と目的について説得活動を展開し、80%を超える職員の賛同を得て、一カ月余りで結成までこぎつけることができた。

「森の里病院労働組合」結成大会には、委任状を含めて63名が参加し、規約・方針・予算・役員構成について満場一致で確認するとともに、連合への加盟も確認した。結成大会には、連合渡島地域協議会、地元の森地区連合もかけつけ「連合加盟」を歓迎した。道南医療会議からも各加盟労組の代表者が参加し、労組設立をとともに喜び合った。

翌9月1日午前10時、森地区連合・道南医療会議も立会のもと、病院責任者である病院長に対し、「労働組合結成通知書」を手渡し、労働組合結成について認めさせた。今後は、職場に内在する様々な課題について整理を図る中から要求書を提出していくこととしている。

(渡島地協 八木橋副事務局長)

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_0926_m_uion_kesei.html

第37回地方委員会を開催

定期大会議案の予備提案など行う

連合北海道は9月25日、第37回地方委員会を開催し、08 - 09年度運動方針、07春季生活闘争まとめ、参議院選挙のまとめ等、第20回定期大会(10月30 - 31日)議案の予備提案などを行った。

渡部俊弘会長は、先に行われた参議院選挙は、「地方が自民にNOを示した選挙」として、政権を放り出した安倍首相に代わり新たに誕生する福田政権は「選挙管理内閣」で、この先行われる「総選挙に備え、強固な態勢を整え直すべき」とし、「全ての組織が総結集できるかどうか重要」と挨拶した。

また、来賓で挨拶された民主党北海道の佐野法充幹事長も、参議院選挙で公認・推薦候補による「2議席独占できなかったのは、党の力量不足、反省する」とし、「衆

議院選挙で政権奪取するためのこれから半年の闘いが、今後の日本の形をつくる」と、連合北海道を構成する全組織に協力を呼びかけた。

その後、議案の提案・質疑討論に移り、委員からテロ特阻法・道財政問題などについて意見が出されたあと、各組織で予備提案された議案をしっかりと討議して大会に臨むよう議長よりお願いし、地方委員会を終了した。



この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_0925_37chihouinkai.html

医療計画策定に関わり道に要請

北海道保健福祉計画策定提言委員会

連合北海道とともに医療職場を組織する自治労、全道庁労組、北海道医療で構成する「北海道保健福祉計画策定提言委員会」は9月25日、道に対して「北海道医療計画(仮称)の策定に関わる要求書」を提出し、現在、策定作業が進められている「北海道医療計画(仮称)」に反映するよう要請した。当日は、連合北海道が小樽山総合政策局長以下2名、自治労道本部から三浦副委員長、石川衛生医療部長、全道庁労組から千葉副委員長、真壁合理化対策部長、川端同副部長が参加し、対応した道保健福祉部の石川治憲次長に対して要求書を手渡し意見交換を行った。

改定期を迎えている現行の医療計画に代わり、平成20年度から10ヶ年の新しい計画が始まることになっている。しかし今日、道内の地域医療をめぐる環境は、臨床研修制度の導入、国立・公立医大の独立行政法人化、医療制度改革の実施、自治体の財政問題の深刻化など大きく変化した。そして、地域医療に携わる医師を始めとする医療従事者の慢性的な不足、病院・診療所の撤退や縮小および診療科目の削減が相次いでおり、新しい計画では、地域における医療提供体制の確保をいかに図るかが

大きな課題である。要求書はそのような現状を踏まえ、「医師確保対策」や「医療機能の分担と連携」など8課題についてまとめたもの。要請の中で今



後の策定スケジュールを質したのに対して石川次長は、新計画の素案は12月の第4回定例道議会までに示すとの見通しを明らかにし、年明けにはパブリックコメントで、道民からの意見を募りたいとした。

連合北海道では引き続き道の計画策定作業を見守るとともに、地域で安心して医療が受けられるよう関係産別や地協とも連携しながら、道への提言活動を継続していくこととする。なお、回答は後日受けることとなっている。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_0925_iryousei.html

2007平和行動in根室を開催

セミナーや「平和ノサップ集会」に市民ら多数参加

連合主催「2007平和行動in根室」行動が9月22日～23日、根室市で開催された。

22日には北方四島学習会が、北方四島交流センター(ニホロ)で行われ、4つのセミナーが開催された。24日には、納沙布岬・望郷の岬公園において、「2007平和ノサップ集会」が開催され、約1300名が参加した。集会後には「根室うまいもん祭り」も開催された。

集会冒頭、主催者として高木剛連合会長が、「62年を越えて、未だ不法占拠が続いている。昨年も乗組員が亡くなるという銃撃事件が起きている。北方領土問題は、



決して過去のものではなく今も続いている大きな課題である。今後も一括返還、日本建築の保存と活用、国としての返還

に向けた責任と努力を求めていく」と述べ、また、参加者に対して「今回参加の経験を語り部となって家庭・地域・職場に伝えてほしい」と訴えた。

地元歓迎挨拶に立った連合北海道の渡部俊弘会長は、「本集会は不法占拠の実態を確認し、速やかな返還を求めると同時に、世界に不法占拠の実態を訴える集会である。目の前にある根室海峡は、行き止まりの海峡となっている。極めて厳しい問題であるが、元島民の方の大半が住んでいる北海道として、返還されるまで運動の灯をいつまでも灯し続ける」と述べた。

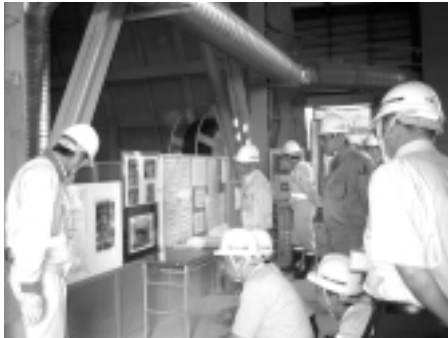
来賓には、山本副知事、地元選出衆議院議員の仲野博子さんも駆けつけ、連帯の挨拶を行った。集会では、元島民の訴えや平和メッセージ、連合北海道の渡部会長から仲村信正連合沖縄会長への平和リレーも行われた。集会最後には、地元連合根室会長代行の綿井三博さんが、四島一括返還を願って北方四島に向かって力強く団結ガンバローを行った。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_0923_peaceinnemuro.html

幌延深地層研究監視連絡会を開催

経産省「最終処分場選定の新しい方法」に懸念

2007年度幌延深地層研究監視連絡会を9月20日、現地である幌延深地層研究センターで、当該地協参加のもと開催した。会議の中で、これまでの活動経過、役員体制を確認、その後、意見交換を行った。その中で、今回、経済産業省が原発から出る高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定に新しい方法を導入する方針を示した事に対し、「処分事業の説明会を開催し、それに参加した自治体が誘致に意欲のある自治体とみなすということであるが、道は放射性廃棄物の道内持ち込みを拒否する条例をつくっており、その説明会をしてしまうということは、条例が空洞化してしまう懸念がある」との意見が出された。小檜山総合政策局長はこれに対し「今、開会中である第3回定例道議会の中でも意見反



映し、高橋知事の態度もしっかり見極めていきたい」と述べた。

「環境対策の充実、積極的な情報公開を」

会議終了後、幌延深地層研究センターより平成18年度調査活動の報告及び平成19年度の調査計画について提起を受け、その後、立坑掘削現場と濁水処理設備を視察した。冒頭、武田所長より「研究センターの運営にあたり、何よりも安全対策や環境対策をしっかりやること、施設を将来廃棄物の処分場にしないこと、そして、情報公開の徹底と地域振興に努め進めていきたい」との挨拶があった。しかし、提起を受けた参加者からは、「環境モニタリングについては常に法律以上のものをやって欲しい」「積極的に情報公開して、信頼関係を築くべき」等の意見が出された。連合北海道としても、こうした意見を踏まえ、幌延深地層研究センターの研究活動に対する監視活動を続けていくことを確認した。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_0920_horonobe.html

泊原発1号機について北電に申し入れ

ディーゼル発電機故障の原因徹底究明や安全運転確保を

泊原発1号機の非常用ディーゼル発電機が2台とも故障していたことについて連合北海道は9月25日、北海道電力に対し原因の徹底究明や安全運転確保等を求める申し入れを行った。

この申し入れは、9月18日から19日にかけて泊原発1号機の定期試験を行った際、非常用ディーゼル発電機2台が起動せず、保安規定に基づき原子炉を手動停止させる事態が起きたことを受けて行ったもの。当日は、小檜山総合政策局長から電源立地部の宇野次長に対し、泊原発1号機の非常用ディーゼル発電機2台が起動しなかった原因を徹底究明し、道民に明らかにすること、泊原発2号機についても非常用ディーゼル発電機の点検を速やかに実施すること、泊原発1・2号機の安全運転が確保されるように保安体制に万全をつくすこと、の3項目を内容とする要請書を手渡した。

要請に対し宇野次長からは、1点目について「原因は現在調査中だが、1台は既に復旧しており、調速装置の不具合によるものと想定している。いずれにしても原因が判明し次第、公表したい。」と回答。2点目については、「2号

機の非常用ディーゼル発電機については8月末と9月中旬に定期試験を行い健全性の確認を行っているが、原因究明の結果、必要があれば点検を行いたい。」とし、3点目については、「今後とも、保安規定を遵守し、発電所の保安確保に万全を期したい」と述べた。



連合北海道としては、中越沖地震を契機とした原発の耐震性や泊原発で発生したボヤ騒動など、道民の原発に対する不安を払拭するよう、引き続き電力事業者をはじめ行政的的確な対応を求めていくこととする。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_0925_hokudenyousei.html

女性委員会はたらく女性の集会を開催

基調講演で「自分らしく生きられる社会へ」

連合北海道女性委員会の「はたらく女性の集会」は、9月15日(土)ロイトン札幌で行われ、尾辻かな子さんの「自分らしく生きられる社会へ」という基調講演がなされた。

「レズビアンという立場でお話をしたい」と尾辻さんは講演の口火を切り、次のように述べた。

「ゲイは、男性であり、男性は正規雇用の割合が高い。レズビアン女性の場合、非正規雇用者である割合が高い。パートナーと一緒にあっても女性同士のカップルでは、社会で自立して生活していくことは難しくなる。女性問題は同性愛者の問題でもある「病気と考えられ治療の対象とされていた同性愛。現在はそのようなことはないが、同性愛嫌悪(ホモフォビア)が同性愛者だけでなく同性愛者自身にもある。本当の自分を自分自身が認めることができなく苦しんだ」同性愛者の存在がおかしいのでは

なく、それを見る社会の偏見の目が問題だ。その社会の偏見を変えなくてはならない。社会を変えようとするために行動する人々がいて、政治の道に進むことを決めた」

最後に「三つの願い」として、1. 会う人が、もしかしたら性的マイノリティかもしれないという思いを持って対応してほしい2. マイノリティの問題は社会問題。この問題に興味を持ち続け偏見や差別の解消に力を貸してほしい3. マイノリティの問題について周囲の人と話し、正しい知識を広げてほしい と述べ、全体で確認し合った。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_0915_hatarakujosei.html



第3回連合北海道男女平等講座を開催

全道から約50名が参加、講演などを聴講

第3回連合北海道男女平等講座は、9月15日ロイトン札幌において、雨の降りしきる悪天候にもかかわらず、全道各地から約50名の参加により開かれた。

本講座では講師に ダイナミックライフの代表取締役である町田好弘氏を迎え、「人づくりと私」と題する講演が行なわれた。

町田氏は、1944年千葉県生まれの63才。36才で、現在の会社を設立し「女性の自立を応援する」を企業目的とし、精神的自立・経済的自立を見出すために、仕事としてのチャンスを提供。毎月、女性の自立を応援する為のセミナーを開催している。また、よさこいソーランの組



織委員会の要職にもついており、組織を運営する課題である人づくりの苦労や経験を自分の人生観を交えながら講演をして頂いた。

町田氏は「最近は何と関わることが多いが、常にプラス志向で人とのつきあいを考えるよう指導し、人を引っ張っていく事が大切である」と述べ、「考え方を变えることで人生も変わる。一つの方向をめざすには、相手を知る事、理解しあうことが、最も重要である。指導者としていつも見える方向性を社員に見せる事で私なりの人づくりをしている」と結んだ。このことは、連合運動の基本姿勢でもある、『顔の見える』運動に通じるものがあると感じた講演であった。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_0915_byodokouza.html



10月の主な動き

イベントカレンダー

連合第10回定期大会
11日(木) 9:30 / 東京国際フォーラム ~ 12日(金)
青年委員会産別・地協・地区連合代表者会議
13日(土) 14:00 / 連合北海道会議室
第3回植樹祭
14日(日) 10:00 / 支笏湖
第2回ハイタク最賞協議会
15日(月) 13:30 / 連合北海道会議室
常駐者会議
16日(火) 10:00 / 連合北海道会議室

第12回執行委員会
17日(水) 10:30 / 連合北海道会議室
第5回エネルギー・環境政策委員会
17日(水) 13:30 / 厚生年金会館
連合北海道ボランティアサポートセンター講座
20日(土) 10:00
第18回女性委員会定期総会
20日(土) 14:00 / 自治労会館
第4回政策委員会
24日(水) 13:30 / ガーデンパレス
労働審判員基礎研修
24日(水) / KKR札幌 ~ 26日(金)

退職者連合第15回定期大会
25日(木) 13:00 / KKR札幌
米艦船室蘭寄港反対全道集会
26日(金) 8:30

連合北海道
第20回定期大会を開催

日時 10月30日(火) 10:00 ~
~ 31日(水)

場所 北海道厚生年金会館